

あの頃
あなたは
何をしましたか。



Densha-dori 5 Shotengai

岡崎市電の歴史

かつて岡崎市内の北と南を結んで小さな路面電車が走っていました。昭和37(1962)年6月16日をもって姿を消した「名鉄岡崎市内線」です。市民の間から「岡崎の市電」、「チンチン電車」と親しまれたこの電車のルーツは、明治21(1888)年9月に開業した官設鉄道(現JR)の岡崎駅と街の中心近くの殿橋の間を結ぶために、明治31(1898)年12月末に開業した「岡崎馬車鉄道」です。

馬車鉄道は多くの旅客や貨物を運び、岡崎の発展に寄与しましたが、より輸送力をあげるため、大正元(1912)年9月に電化され、社名も「岡崎電気軌道」と改めました。その後、複線化や井田町、そして大樹寺を経て門立までの延長などが行われましたが、昭和2(1927)年4月に三河鉄道に合併して三鉄軌道線に、昭和16(1941)年6月には名古屋鉄道に合併され、名鉄岡崎市内線になりました。

昭和20(1945)年7月の空襲では、車庫や電車に大きな被害を受けましたが、すぐに走り出し、戦後の復興に大きな役割を果たしました。昭和26(1951)年12月には戦争末期に休止されていた旧西尾線の一部を復活し、福岡町までが開通しました。

北の大樹寺から南の福岡町までの8.8kmを一口に岡崎市内線といいますが、厳密にいうと、三つの線からなっていました。正式に岡崎市内線というのは、岡崎駅前から井田町までの5.8kmで、井田町から大樹寺までの0.5kmは、拳母線の一部でした。また、戦後復活した岡崎駅前～福岡町間2.5kmは、福岡線という線名を持っていました。しかし、電車は大樹寺から福岡町まで通して運転されていたので、一般には大樹寺から福岡町までを「岡崎市内線」と呼んでいました。

岡崎の市電が廃止されて四十数年経った今も、電車の通った道を「電車通り」と呼ぶ人も多く、それだけ親しまれていた電車であり、懐かしく思われている証拠ではないでしょうか。

もっぱら郷愁の乗り物としての面が強調される路面電車ですが、最近では環境に優しく、人に優しい交通機関として、世界中で路面電車が見直されています。超低床式で車椅子でも乗りやすく、CO2を出さない近代型路面電車はライトレール(LRT)と呼ばれ、欧米各都市では復活したり、新設されたりして、中心市街地の活性化にも役立っています。日本でも一昨年の春に開業した「富山ライトレール」は大勢の利用者でにぎわっています。

藤井 建

昭和の 元気の 展

市電の走った町並み写真展

期間：9月13日(土)～23日(祝)

開場時間 午前10時～午後5時

会場：ヒラノ看板特設会場

本町バス停前

主催：電車どおり5商店街

岡崎明大寺商店街振興組合

岡崎銀座商店街振興組合

本町晴明ストリート

殿橋通発展会

能見北発展会

協力：日本路面電車同好会会員 藤井 建氏
街情報ステーション

岡崎の町に「電車通り」という通りがあります。

昭和30年代、通りには市電が走っていて、市民の足として親しまれていました。

「電車通り」は岡崎市街を貫く通りであると同時に

周辺に数々の歴史的スポットを控える背骨のような通りだと言えます。

その電車通りに店を並べる商店街が集まって、元気な街をつくらうと

平成17年より「電車どおり瓦版」を発行するなどの活動をしてまいりました。

ちょうど市電が走っていたころ、町の商店街はずいぶん活気があり、賑やかでした。

「電車どおり5商店街」は

市電のあった頃の岡崎の町をもう一度見つめてみたいと思います。

懐かしい市電と共に映る町並みの写真、そして町並み図などをご覧下さい。

思い出話に花を咲かせながら、

あの頃の「昭和の元気」を振り返ってみませんか。



問い合わせ先：街情報ステーション0564-22-5720（午前10時～午後7時・火曜休）